

—— 南部ではじめよう Okinawan Resident Life ——

沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター

臨床研修医



募 集

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center



【南部医療センター・こども医療センターの理念】

こどもからおとなまで 「大切な命を守り、県民に貢献する」病院

県立南部医療センター・こども医療センターは、全国でも数少ない、こども病院を併設した、大人とこどものための総合医療センターとして2006年4月、当時の県立那覇病院と県立南部病院を整備・統合し、全く新しい機能や役割を持った基幹病院として開院しました。

全病床数は434床(小児病床108床)で、急性期病院として位置付けられています。診療の特徴として、胎児期から成人までを対象とし、あらゆる疾患に対応する事が可能な高度で多機能な病院です。我が国の少子高齢化社会において、こどもから大人までを継続して医療サービスを受ける事ができるユニークな病院として注目を集めています。

【基本方針】

1. 県民と協働し、共感・共存できる公的医療を実践します。
2. 県民生活を守る救急医療を365日24時間提供します。
3. 病んでいるこども達の可能性を最大限に生かせるよう努力します。
4. 教育・研修病院として良き医療人を育成します。
5. 病状や治療方針について、平易な言葉で十分に説明し、納得がいく同意を得るよう努力します。
6. 病院ボランティアの受け入れを進んで行います。
7. 県民が誇れる、県民の病院として地域交流から国際交流まで進めていきます。
8. 沖縄県の基幹病院として職場環境に配慮し、健全経営に努めます。



【病院の特徴】

南部医療圏における救命救急医療

県都那覇市を含む南部医療圏(人口約72万人)はもちろん、沖縄県(一部鹿児島県)の離島からの症例についても救命救急センターで24時間365日、初期から3次のすべての救急患者(小児から高齢者まで・特殊疾患も含めて)に対応し治療に当たります。

小児の専門診療(こども病院機能)

沖縄県全域と近接する県外の小児を対象とした、小児医療の最終病院として3次医療機能を有します。総合周産期母子医療センター、母体・胎児集中治療室(MFICU, 6床)、新生児集中治療室(30床)、および小児集中治療室(8床)を有し、先天性心疾患、血液疾患、腎疾患、神経疾患、小児外科・小児形成外科・小児整形外科疾患など、専門医療を行う完結型のこども病院として、全県から紹介、搬送される重症児の管理を行います。

また在宅医療や小児の成育・支援を含めた小児の総合診療を提供します。



高度多機能病院

成人部門には、多岐にわたる専門性の高い疾患が集まります。そのゲートキーパーとしての総合診療機能を救命救急科と総合内科が担っています。また当院は、急性冠症候群、脳血管障害、多発外傷など内因系、外因系疾患に対応する集中治療室(ICU15床)を有し、高度医療を行います。また地域支援病院として、紹介、逆紹介を通じ、急性期・慢性期の病診連携を行います。



精神身体合併症医療

総合病院の中に、県内では最初の合併症専用の精神科病棟(5床)を持ち、身体合併症のある精神疾患を内科、外科や他科と連携し治療を行います。

離島、へき地医療支援

当院は8カ所の附属診療所のへき地医療拠点病院として、医療支援を行い、離島の人々の健康をサポートします。



若い力と共に、
理想を追い求めて

2016年度より研修管理委員長を務めます梅村武寛です。
2014年7月に福岡大学病院 救命救急センターより赴任して参りました。

ここ沖縄は、県立中部病院を代表とする初期研修において、全国でも非常に優れた制度をもつ地域です。たくさんの症例を経験し、その中で上級医と一緒に、より良い方針を実践的に模索し(屋根瓦方式)、それを経験する現場はER方式を中心とした実臨床であり、徹底的に(総合)内科的思考を鍛え上げます。これらを基本とし、当院ならではの研修制度を今後築き上げていくつもりです。具体的には、症例の入り口であるERから、治療過程の病棟・ICU管理、その後の退院時方針まで一貫して考えることのできる臨床医を育成することです。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センターは、設立13周年を迎えたばかりのまだまだ若い病院です。ただし当院設立前の県立那覇病院からの伝統を継承する施設でもあります。皆さんの若い力と共に、理想を追い求めて任に当たるつもりです。

是非一緒に当院で学び、働き、様々な経験をしていきましょう。

研修管理委員長・救命救急センター長

梅村 武寛

Takehiro Umemura

研修プログラムの特徴



■ 研修の基本的な方針

全国から初期臨床研修医、専攻医を受け入れ、現在（平成29年4月1日現在）研修医41名、スタッフ127名で屋根瓦方式や相方向性の医学教育を行います。初期研修は、常に患者の立場に立った医師像の形成、病歴、身体所見の取り方、基本的な手技を取得する事を学び、検査に頼らない全身状態から診た重症度の判断力を養成します。初期臨床研修・専門医研修を通して、全科豊富な common disease への臨床暴露により、プライマリ・ケアの素養を身に付け、ジェネラリスト育成を目指します。

■ 屋根瓦方式の指導体制

上級医が後輩医を指導する、いわゆる「屋根瓦方式」の手厚い指導体制を採用しています。特に屋根瓦方式は救急医療の研修の現場に適応しています。救急室は常に初療を経験することができ、研修医にとって最も適した修練の場です。初期研修医1年次を2年次が、さらにそれを各科の専攻医が、そして指導医が指導します。

■ 救急医療

当院は、南部地域の救急医療の中心的な役割を担っています。初期研修においても多くの症例を経験する場です。ER業務での特徴は、必ず（24時間365日）、上級医（スタッフ）が**現場に常駐すること**と、当直帯において**複数名（1・2年次研修医が2名ずつ）勤務**することです。上級医の指導・助言をもらうことも同年代間でディスカッションすることも可能な環境を整えています。

■ 各科カンファレンスの充実

モーニングカンファレンス、コアレクチャー、スタッフレクチャー、外部からの特別講演、診療所や海軍病院との症例検討会などを行います。また、県立中部病院と連携して米国の教授陣から指導を受ける機会があります。その他各診療科において研修医の学会発表を積極的にサポートしています。

一人あたりの
救急での
経験症例数
約1,800例
(2年間)

■ コアレクチャー

月曜日から金曜日の昼12時15分から13時00分までの45分間、昼食をとりながら受講します。講義内容は受けたその日からの患者診療に役に立つような実践的なものを目指しています。



コアレクチャー01／小児救急対応について



コアレクチャー02／外国人講師によるレクチャー

■ 360度評価

医師・看護師・医療従事者から自身を評価してもらいたい方を選んで評価して頂きます。フリーコメントには良い悪いを含め、日頃から関わっている方だからこそ言えるコメントがもらえます。この評価から得た評価点を元に年度の各年次ベストレジデントを選出します。

■ 地域医療・離島診療所研修

当院は8ヶ所の附属診療所のへき地医療拠点病院として医療支援を行い、離島の人々の保健、健康をサポートします。離島研修の合間には地元の方々と直に交流する機会もあり、より深く地域を知り生活に密着した様々な経験ができます。



8つの診療所で
離島の医療を守ります

研修カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内 科			救急科	外 科			麻酔科	小児科		産婦人科	
2年次	内 科			救急科	地域	精神科	内 科	選 択				
救急当直												



※地域医療研修 … 沖縄県内離島診療 (2週間) + クリニックまたは保健所 (2週間) を組み合わせる。

内科ローテーション … 総合内科、循環器、消化器、神経、血液、呼吸器、腎・リウマチ

外科ローテーション … 一般外科、整形外科、脳外科、選択 (小児外科、形成外科、心外)

小児科ローテーション … 小児総合診療科、新生児科、選択 (神経、血液腫瘍、腎臓、循環器)



当院では初期研修医がグラム染色をし、
抗菌薬を決定します。



レジデントの日々

内科

7:00～

プレ回診

2年目の先輩Dr.と担当患者のカルテを確認し、ベッドサイドで問診・身体診察を行い1日の方針や検査・処置のオーダーを確認します。(担当患者は15～25名。多いときは40名になることも)

7:30～

内科カンファレンス

毎週火曜日・金曜日は内科全体でのカンファレンスです。火曜日は研修医2年目のケースカンファレンスがあります。様々な科のスタッフからいろいろな質問やショートレクチャーがあり、勉強になります。

金曜日はスタッフレクチャーです。専科の最新トピックスや興味深い話題まで内科全体の勉強会です。それ以外の日はM&M、CPC、各科抄読会・カンファレンスがあります。

8:30～

救急当直から入院患者のプレゼンテーション

当直帯に入院した患者を各科で振り分けて担当します。担当したい症例があれば自ら手をあげることも。担当が決まったら問診・身体診察・指示出しです。



9:00～

グループ回診および病棟回診

各科に分かれてカルテ確認をし、病棟回診を行います。プレ回診で把握した内容及び方針をスタッフにプレゼンテーションします。

10:30
～12:15

病棟業務

新規入院患者のアドミッションノート(入院サマリー)を作成しながら、平行して病棟業務を行います。アドミッションノートは初期研修医1年目の大切な仕事です。救急室より入院依頼があればそれに対応します。

12:15
～13:00

コアレクチャー・初期研修医勉強会

昼食をとりながら内科だけではなく病院全体様々な科のレクチャーを受けます。研修医が担当になり、勉強会を開催することもあります。

13:00～

病棟業務および新患診察

病棟業務を行いながら担当患者の検査があれば、同行し手技や画像の読影を学びます。もちろん、救急室より入院依頼があればそれに対応します。

16:00～

夕回診

新規入院患者や検査結果についてプレゼンテーションを行い、病棟回診をします。

18:00～

当直・病棟業務へ

救急当直は救急へ。残った業務をしながら今後の方針を先輩Dr.と考えます。

業務が終われば、同期や先輩とご飯を食べに行きます。抄読会やカンファレンスの準備に追われることも…

外科



7:00

～7:30

朝回診

呼吸器外科チームと上級医と回診をします。

7:30～

外科カンファレンス

月:「休日の緊急手術報告会」一般外科・小児外科・形成外科・放射線科/土日の緊急手術の症例・術中所見などをそれぞれの科がプレゼンします。「全体カルテ回診」一般外科/多い時には40名ほどの症例の経過を報告します。

火:「術後カンファレンス」一般外科・小児外科・心臓血管外科・放射線科/主に定期手術の症例の術中所見・術後経過の報告を執刀医がプレゼンテーションします。

水:第1週目のみ「病理カンファレンス」一般外科・小児外科・病理診断科/術前の検査から術中の採取検体まで病理と臨床とを照らし合わせ症例の方針など検討していきます。

金:「術前カンファレンス」一般外科・小児外科/来週の定期手術の症例をプレゼンテーションします。経過・術前検査・術前診断・術式を検討する大切な場です。

8:30～

手術

多い時には3-4件あり、2件平行して行う場合にはなるべく大きな手術に第2助手として手洗いをし入ります。2年次になると胆のう摘出術・虫垂切除術・膵胸の手術などの症例は執刀医を任せられます。また緊急手術は必ず当番の先生と外科研修医が呼ばれ、24時間手術に入り入院から術後まで患者管理を行っています。

12:15
～13:00

コアレクチャー



17:00～

夕回診

消化器外科チームと上級医と回診をします。

これが1日の流れですが、手術に絶対参加するので病棟の患者の把握がおろそかにならないように夕方や朝回診の前などに患者をしっかりと診察し、方針は主治医と相談します。

小児科

7:00
～7:30

担当患者診察

カルテで一晩の変化や朝のバイタルをチェックし、プレラウンドで患者の状態を確認。回診に備えて準備します。

7:30
～8:15

症例カンファレンス

初期研修医や後期研修医、上級医の先生方が、日替わりでプレゼンテーション、ディスカッションを行います。

8:15～

病棟回診、検査、処置

回診でその日の方針を決定し、検査結果の確認、処置、治療の指示出しなどを行います。



12:15
～13:00

コアレクチャー

専門医が初期研修医の質問を受け、分かりやすく解説します。

14:30～

カルテレビュー・回診

日中の病棟での変化をまとめて、カルテ記載をしつつ回診に備えます。

17:00～

ショート・レクチャー、当直申し送り

夕回診でも患者さんについてプレゼンし、フィードバックをもらいます。当直は、各科をまたいで管理するため、毎日しっかりと申し送りを行います。



産婦人科

7:00
～7:30

病棟回診

専攻医と一緒に夜から朝の状態を把握します。

7:30
～9:00

ケースカンファレンス

当直の申し送り、前日の入院、手術、分娩などの報告。
初期研修医には一人一人担当患者が決まり、その患者について発表します。

9:00～

病棟管理、または手術

自分の担当患者が手術や分娩であればそこへ、そうでなければ病棟管理を。(1週間に3-4例帝王切開があります)

当院は総合周産期センターなので、沖縄南部地区の重症妊婦が搬送されてきます。(妊娠20週台の切迫早産、重症妊娠高血圧症候群、深部静脈血栓症合併妊娠など)入院患者は大体20-30名位。日々のバイタルや、患者の全身状態、また連日午前中にCTGモニターを施行するので、子宮収縮の状態や胎児の状態を把握し、管理します。

11:00～

病棟回診

スタッフ医師とカルテ診後、病棟回診を行います。このときには入院患者全員の把握をし、今日の状態を発表します。

12:15
～13:00

コアレクチャー

13:00～

入院患者の診察、入院時カルテの作成

連日1-2名の入院がある為、その日の入院患者の問診をとり、身体診察をします。産科的な診察は専攻医またはスタッフ医師と一緒にします。胎児エコーをさせてもらえることもよくありますよ!

その日の仕事が終わる次第終了。分娩になりそうな人がいたら、しっかり経過を診ていきます。



日々の仕事としてはルーチン業務が多いですが、どんな重症患者がいつ搬送されてくるかわからないので、ドキドキです。搬送されてきた瞬間に分娩となった方もたくさんいます。

また学生の頃とは違い、お産の現場に直に立ち会え、介助ができるので、感動です!

数字で見る
当院
(平成28年度)



・ ER 総 受 診 者 数 36,217人
・ 救急車取扱い件数 4,659件
・ 外科の手術件数 2,001件
・ 年 間 総 分 娩 数 448件

・ 成人外来受診者数 107,459人
・ 成人入院患者数 112,440人
・ 小児外来受診者数 43,311人
・ 小児入院患者数 35,616人



医療に対する 真摯で熱いエネルギー

窪田 紀彦

Norihiko Kubota

みなさんこんにちは!

「落ち込んだりもしたけれど、僕は元気です。」と、どこかの魔女の見習いのような気分で日々働いている初期研修医1年目の窪田紀彦と申します。

当院の魅力を紹介します。まず雰囲気が明るくて優しい。

これは沖縄という土地柄、人の温かさと、当院の医療に対する真摯で熱いエネルギーによるものだと感じています。小児病床も多くかわいい天使達はいつも元気を与えてくれます。

そして様々な診療科があり、救急では1次～3次まで幅広く症例を診ることがができます。

将来の診療科が決まっている人もそうでない人も、また救急やジェネラルに強くなりたい人にもオススメです。僕は沖縄に縁もゆかりもないですが、沖縄でそしてこの病院で医師としてのキャリアをスタートすることができてvery happyです!

とても400字では当院の魅力をお伝えできません(笑) 是非、一度見学にお越し頂いて当院の雰囲気を肌で感じて下さい。きっと素敵なお縁がありますよ!



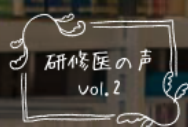
全国から研修医が集まります

【これまでの初期研修医出身地】

北海道	青森県	秋田県	山形県	福島県	東京都	千葉県	埼玉県	神奈川県	群馬県
栃木県	茨城県	新潟県	石川県	福井県	山梨県	富山県	静岡県	愛知県	岐阜県
大阪府	京都府	三重県	滋賀県	和歌山県	奈良県	兵庫県	岡山県	広島県	鳥取県
島根県	山口県	徳島県	香川県	高知県	愛媛県	福岡県	長崎県	佐賀県	熊本県
宮崎県	鹿児島県	沖縄県							

【これまでの初期研修医出身大学】

北海道大学、旭川医科大学、札幌医科大学、弘前大学、秋田大学、山形大学、福島県立医科大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京慈恵会医科大学、日本医科大学、東京医科大学、日本大学、順天堂大学、東邦大学、昭和大学、千葉大学、横浜市立大学、北里大学、群馬大学、自治医科大学、筑波大学、新潟大学、金沢医科大学、富山大学、浜松医科大学、名古屋大学、名古屋市立大学、岐阜大学、大阪医科大学、関西医科大学、近畿大学、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、和歌山県立医科大学、奈良県立医科大学、神戸大学、兵庫医科大学、岡山大学、川崎医科大学、鳥取大学、島根医科大学、山口大学、高知大学、愛媛大学、九州大学、福岡大学、産業医科大学、久留米大学、長崎大学、佐賀大学、熊本大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学



医師としての基礎を 学ぶ場として

緑間 鈴

Rin Midorima

初めまして、初期研修医2年目の緑間鈴と申します。

当院の研修は、成人小児問わず、common diseaseから非常に稀で専門的な疾患まで2年間暴露し続けるプログラムになっています。研修医がきちんとチームの一員として尊重され、症例に対して文献にあたったり診療計画を考えたりすることが求められます。勿論最初は右も左も分からない状態でのスタートになりますが、病院の気風として先輩研修医から指導医、コメディカルの方まで非常に明るく、気さくで教育熱心な方が多く手厚いサポートを受けながら勉強していくことができます。

県内でも屈指の忙しさだと思うのですが、雰囲気は何故かのんびりとしているのが当院の特徴です。私が3年目以降も小児科レジデントとして当院で勉強を継続していくことを決めたのもそういった明るい雰囲気と症例の豊富さからです。

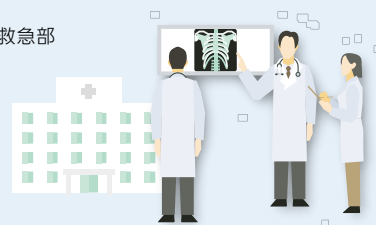
是非一度見学にお越しください、医師としての基礎を学ぶ場として当院を選んでいただけたら後悔はさせませんよ！

□ 院外研修施設一覧①(協力施設先)

- | | | | |
|------------|---------------|------------------|---------------|
| 01. 沖縄協同病院 | 07. 栗国診療所 | 13. かみや母と子のクリニック | 19. 名嘉村クリニック |
| 02. 那覇市立病院 | 08. 北大東診療所 | 14. かりまた内科医院 | 20. 平田胃腸科・内科 |
| 03. 渡嘉敷診療所 | 09. 南大東診療所 | 15. ぐしこどもクリニック | 21. 三原内科クリニック |
| 04. 座間味診療所 | 10. 伊平屋診療所 | 16. 首里城下町クリニック | 22. 那覇市保健所 |
| 05. 阿嘉診療所 | 11. 公立久米島病院 | 17. まつおTCクリニック | 23. 南部保健所 |
| 06. 渡名喜診療所 | 12. あかみねクリニック | 18. 徳山クリニック | |

□ 院外研修施設一覧②(協力型病院施設先)

- | | |
|-----------------|-------------------------------------|
| 01. 琉球大学医学部付属病院 | … 放射線科、がんセンター、泌尿器科、精神科、麻酔科(ICU)、救急部 |
| 02. 沖縄県立中部病院 | … 内科、外科、小児科、産婦人科、救急 |
| 03. 沖縄県立北部病院 | … 内科、外科、小児科、産婦人科、救急 |
| 04. 沖縄県立宮古病院 | … 内科、外科、小児科、産婦人科、救急 |
| 05. 沖縄県立八重山病院 | … 内科、外科、小児科、産婦人科、救急 |
| 06. 浦添総合病院 | … 内科、外科、小児科、救急 |
| 07. 石巻赤十字病院 | … 救急 |
| 08. 熊本労災病院 | … 救急 |



新専門医制度 専門研修基幹施設

01. 内科専門研修基幹施設
02. 外科専門研修基幹施設
03. 救急科専門研修基幹施設
04. 小児科専門研修基幹施設
05. 総合診療科専門研修基幹施設

認定医療機関

01. 日本医療機能評価機構認定病院 3rd G.Ver1.0
02. 総合周産期母子医療センター
03. 地域医療支援病院

指定医療機関

01. 保険医療機関
02. 更生医療指定医療機関
03. 労災指定病院
04. 生保、児童、身体障害者福祉等
各法指定病院
05. 結核予防法指定病院
06. 原爆医療指定病院
07. 看護教育実習指定病院
08. エイズ医療拠点病院
09. 災害拠点病院
10. 第一種・第二種感染症指定医療機関
11. へき地医療拠点病院
12. 臨床研修指定病院
13. 被爆者一般疾病医療機関
14. 救命救急センター
15. 特定疾患治療研究事業委託医療機関
16. 難病指定医療機関
17. 指定小児慢性特定疾病医療機関

学会認定施設

01. 日本小児科学会認定専門医研修施設
02. 日本内科学会認定専門医研修施設
03. 日本救急医学会認定専門医指定施設
04. 日本外科学会認定専門医研修施設
05. 日本集中治療医学会認定専門医研修施設
06. 日本プライマリ・ケア連合学会認定専門医研修施設
07. 日本臨床神経生理学会認定施設
08. 日本消化器病学会認定専門医研修施設
09. 日本心臓血管外科学会認定専門医研修施設
10. 日本麻酔科学会認定専門医研修施設
11. 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
12. 日本眼科学会認定眼科専門医制度研修施設
13. 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
14. 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
15. 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
16. 日本整形外科学会専門医制度認定研修施設
17. 日本透析医学会認定医制度教育関連施設
18. 日本脳神経外科学会専門医制度指定訓練関連施設
19. 日本臨床細胞学会認定教育研修施設
20. 日本臨床細胞学会認定施設
21. 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(新生児)認定施設
22. 日本腎臓学会認定専門医研修施設
23. 日本病理学会病理専門医研修登録施設
24. 日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練施設
25. 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設
26. 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
27. 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
28. 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
29. 日本泌尿器学会認定泌尿器科専門医教育施設
30. 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
31. 日本神経学会認定専門医制度准教育施設
32. 日本形成外科学会認定施設
33. 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
34. 日本呼吸器学会認定施設
35. 日本呼吸器外科学会専門医関連施設
36. 日本高血圧学会専門医認定施設
37. 関連10学会構成 胸部ステントグラフト実施施設
38. 関連10学会構成 腹部ステントグラフト実施施設
39. 日本小児神経学会専門医研修施設
40. 日本てんかん学会認定てんかん専門医研修施設
41. 日本小児外科学会認定小児外科専門医育成施設
42. 日本がん治療認定医機構認定研修施設
43. 日本血液学会認定血液研修施設
44. 日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設
45. 日本脈管学会認定研修関連施設
46. 日本感染症学会認定研修施設
47. 日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設
48. 日本産婦人科学会専攻医指導施設
49. 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
50. 日本口腔外科学会専門医准研修施設
51. 植込型補助人工心臓治療関連学会協議会認定
植込型補助人工心臓実施施設

★ 当院の概要

平成29年4月1日現在

名 称／沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
 所 在 地／〒901-1193 島尻郡南風原町字新川118番地1
 開 設 者／沖縄県知事
 開設年月日／平成18年4月1日
 病 院 長／佐久本 薫
 敷 地 面 積／57,278.52㎡
 建 物／鉄骨・鉄筋コンクリート造
 （建物延床面積 36,571㎡）
 建 築 面 積／12,436㎡

病 床 数／434床（一般 423床・精神 5床・感染 6床）
 職 員 数／1,166人（診療所を除く）
 医師 168人／看護部 531人／その他 407人
 附属診療所／（稼働数）8（8）
 総合病院承認／昭和59年5月1日
 救急告示施設／平成18年4月1日
 人 工 透 析／昭和63年6月1日



★ 当院の診療科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、気管食道外科、心臓血管外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科、腎臓内科、血液・腫瘍内科、感染症内科、糖尿病・代謝内科、乳腺外科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、小児腎臓内科、小児神経内科、小児血液・腫瘍内科、小児内分泌・代謝内科、小児脳神経外科、小児整形外科、小児形成外科、小児精神科、小児泌尿器科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、新生児内科、小児放射線科、小児麻酔科

臨床研修医募集要項

- 募集定員：15名
- 募集方法：全国マッチングによる公募
- 選考方法：書類審査及び面接
- 提出書類：履歴書（指定様式有）、成績証明書
- 申込み期間：3月～9月予定

*見学は随時受け付けております。
 詳細はホームページをご参照ください。

処 遇

- 身分：嘱託初期研修医師
- 給与：月額 300,000円
- 夜勤手当：救急当直の場合 17,000円／回
- 有給休暇：年間 10日間
- 夏休み：14日間
- 宿 舎：研修医宿舎有
- 社会保険：健康保険、厚生年金保険、雇用保険、
 労働者災害補償保険法、地方公務員災害補償法

見学の申込み先

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 卒後臨床研修センター

メールアドレス
 nanbu_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp

（見学の2週間前までにメールにて申込みください。）

- 申込み先
 メールアドレス
 QRコード

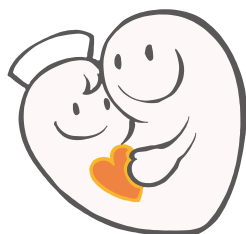


- 研修医募集
 ホームページの
 QRコード





お問い合わせ



沖縄県立南部医療センター・こども医療センター内 卒後臨床研修センター

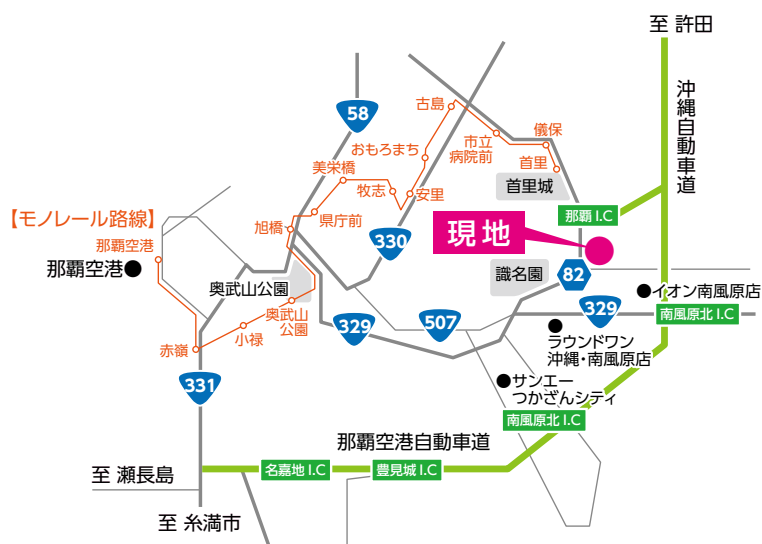
TEL:098-888-0123 FAX:098-888-6400

〒901-1193 沖縄県南風原町字新川118-1

メールアドレス: nanbu_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp

アクセス

那覇空港 南風原町



- 那覇空港駅
 - モノレール(ゆいレール) / 27分 ...330円
- 首里駅
 - 徒歩 / 1分
- 首里駅前バス停
 - 1番 首里牧志線(那覇バス)
 - 14番 牧志開南循環線(那覇バス)
 - 所要時間は、道路事情により異なります。 ...230円
- 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター